

脳卒中に関する二次保健医療圏ごとの医療機能と連携の現状

《大津保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成19年3月の1ヶ月間で54の診療所が脳卒中患者（疑われる者、予後の管理者を含む。）447名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は40で、平成19年3月の1ヶ月間に56名の患者の紹介が行われています。また、68の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆CT検査および超音波ドプラー検査が可能な診療所

つかだ内科クリニック

◆超音波ドプラー検査および頸動脈超音波検査が可能な診療所

かやの浦小林診療所

◆CT検査が可能な診療所

南大津クリニック

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

北雄琴クリニック、瀬古内科クリニック、上田上診療所、大西医院、光吉医院

②病院前救護（発症直後の救護・搬送等）機能の状況

脳卒中に関する知見を深め、疑わしい症状が現れた場合には、迅速かつ適切に専門的な検査・治療ができる医療機関を受診できるようにしておく必要があります。

脳卒中に関する知見を深め、疑わしい症状が現れた場合には、迅速かつ適切に専門的な検査・治療ができる医療機関を受診できるようにしておく必要があります。

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は平成17年中に218回開催され、3,976人が受講しています。（平成18年版消防防災年報）

ii. 大津市消防局

平成18年版消防防災年報によると、平成18年4月1日現在11台の救急車を保有し、82人の救急隊員（うち救急救命士31人）が活動しています。平成17年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で25.5分で、7,660人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる2時間を超えた事例は6例です。

なお、圏域におけるメディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	大津市民病院	大津赤十字病院	滋賀医科大学附属病院
24時間対応	○	○	○
専門職員の配置			
日本脳卒中学会専門医	○	○	○
脳神経外科専門医	○	○	○

リハビリテーション科専門医	—	○	○
認定看護師（救急看護）	—	○	○
対応可能な治療法			
脳梗塞急性期の治療 （血栓溶解療法等）	◎	◎	◎
脳梗塞再発予防のための 外科手術	○	○	○
脳梗塞再発予防のための 血管内治療	○	○	○
脳出血の内科的治療	○	○	○
脳出血による血腫除去の ための外科手術	○	○	○
くも膜下出血の開頭手術	○	○	○
くも膜下出血の脳血管内 治療	○	○	○
急性期リハビリテーション	○	○	○

※ ◎はt-PA（プラスチノーゲンアクチベーター）の静脈内投与による脳血栓溶解療法が可能であることを示す。

※ 24時間対応にはオンコールによる体制確保も含まれます。

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）が天津赤十字志賀病院で、脳出血の内科的治療が中山病院、ひかり病院、琵琶湖養育院病院で実施可能です。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

打出病院、琵琶湖中央病院、山田整形外科医院で可能となっています。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

天津市民病院（30床）と天津赤十字病院（41床）の2病院です。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能なその他の医療機関

ひかり病院、琵琶湖中央病院、琵琶湖養育院病院、山田整形外科病院の4病院で実施が可能となっています。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

レーク・ホロニー、ケアセンターおおつ、B. O. Hケアサービスセンター、ケアセンター志賀、サンビューしが、虹水苑、日和の里

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が68ヶ所、在宅医療支援診療所が21ヶ所、訪問看護ステーションは14ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は101ヶ所、脳血管疾患リハビリテーション料届出診療所は3ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は大津市民病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学附属病院の3病院であり、その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、ほぼ全てがこの3病院であることから、圏域における脳卒中に関する急性期医療機能は充足されており、急性期医療の提供体制は圏域内で完結しています。

ii. 診療所と病院の連携状況

ア. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としている病院は、大津赤十字病院、大津市民病院が圧倒的に多く、この2病院で65%を占めています。次いで多いのは、社会保険滋賀病院、滋賀医科大学附属病院（2病院で25%）であり、圏域外の医療機関で紹介先とされた病院は10%と、初期診療機関からより専門的な検査・治療機関への連携は、圏域内でほぼ完結しています。

イ. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

69の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。逆紹介を行っている病院は、アと同傾向にあり、大津赤十字病院、大津市民病院が圧倒的に多く、この2病院で約60%、社会保険滋賀病院、滋賀医科大学附属病院を加えると全体の80%以上となり、圏域内での連携が大部分を占めています。

《湖南保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成19年3月の1ヶ月間で51の診療所が脳卒中患者（疑われる者、予後の管理者を含む。）を803人を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は83で、平成19年3月の1ヶ月間に47名の患者の紹介が行われています。また、52の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆MRI検査が可能な診療所

小西醫院

◆CT検査および超音波ドプラー検査が可能な診療所

草津ハートセンター、加藤乳腺クリニック

◆CT検査が可能な診療所

おうみクリニック、守山さくら内科クリニック

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

内田内科循環器科、九谷医院、若草診療所、ますだ医院、藤井内科、安田医院、まがらクリニック、南医院

◆頸動脈超音波検査が可能な診療所

やまもとクリニック

②病院前救護（発症直後の救護・搬送等）機能の状況

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は平成17年中に218回開催され、3,976人

が受講しています。(平成 18 年版消防防災年報)

ii. 湖南広域行政組合消防本部

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 11 台の救急車を保有し、168 人の救急隊員（うち救急救命士 45 人）が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 25.3 分で、5,693 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例はありません。

なお、圏域におけるメディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	草津総合病院	県立成人病センター	守山市民病院	済生会滋賀県病院	野洲病院
24 時間対応	○	○	—	○	—
専門職員の配置					
日本脳卒中学会専門医	○	○	○	○	○
脳神経外科専門医	○	○	○	○	○
リハビリテーション科専門医	—	○	—	○	—
認定看護師（救急看護）	—	—	—	—	—
対応可能な治療法					
脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）	◎	◎	◎	◎	◎
脳梗塞再発予防のための外科手術	○	○	○	○	○
脳梗塞再発予防のための血管内治療	○	○	○	○	—
脳出血の内科的治療	○	○	○	○	○
脳出血による血腫除去のための外科手術	○	○	○	○	○
くも膜下出血の開頭手術	○	○	○	○	○
くも膜下出血の脳血管内治療	○	○	—	○	—
急性期リハビリテーション	○	○	○	○	○

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）が近江草津徳洲会病院と宮脇病院で、脳出血の内科的治療が宮脇病院で、急性期リハビリテーションが近江草津徳洲会病院と宮脇病院で実施可能です。

また、済生会滋賀県病院には県下で唯一の脳卒中専用病室が設置されています。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

検査・診断のみ可能な病院はありません。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

南草津病院（42 床）と野洲病院（41 床）の 2 病院です。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能なその他の医療機関

宮脇病院、県立成人病センター、守山市民病院の3病院で実施が可能となっています。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

草津ケアセンター、ケアタウン南草津、シニアセンターティファニー、ケアポート栗東、寿々はうす

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が52ヶ所、在宅医療支援診療所が9ヶ所、訪問看護ステーションが12ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は72ヶ所、脳血管疾患リハビリテーション料届出診療所は1ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は草津総合病院、県立成人病センター、済生会滋賀県病院、野洲病院の4病院です。その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、大部分がこの4病院（済生会滋賀県病院が中心で、一部は近江草津徳州会病院への紹介を行う例も見られる。）となっていますが、圏域外となる滋賀医科大学附属病院や京都大学医学部附属病院への紹介も行われていることが伺えます。しかし、紹介先病院がいずれも大学病院であることから、特殊な症例が多いと考えられ、圏域における脳卒中に関する急性期医療機能はほぼ充足され、急性期医療の提供体制は基本的に圏域内で完結している状況にあると思われます。

ii. 診療所と病院の連携状況

ア. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としている病院は、済生会滋賀県病院、県立成人病センターが圧倒的に多く、2病院を合わせると57%を占め、次いで多い草津総合病院、滋賀医科大学附属病院、守山市民病院を加えると全体の90%近くとなります。圏域外の医療機関である滋賀医科大学附属病院が紹介先として一定の割合（約10%）を占めているため、初期診療からより専門的な検査・治療への連携については、大津保健医療圏ほど完全ではないものの圏域でほぼ完結されている状況にあると考えられます。

イ. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

52の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。逆紹介を行っている病院は、i)と同傾向にありますが、県立成人病センターからの逆紹介（33%）が最も多く、済生会滋賀県病院等圏域内の他の病院と合わせると全体の86%近くになります。隣接する大津保健医療圏の病院からの逆紹介も一定程度見られるものの、その割合は1割程度であり、圏域内での連携がほとんどとなっています。

《甲賀保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間で 17 の診療所が脳卒中患者(疑われる者、予後の管理者を含む。) 60 名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は 26 診療所で、平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間に 28 名の患者の紹介が行われています。また、19 の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆MRI 検査が可能な診療所

村上整形外科クリニック

◆CT 検査が可能な診療所

石部医療センター、速水医院

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

岩谷医院、今村医院

②病院前救護(発症直後の救護・搬送等)機能の状況

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は、平成 17 年中に 28 回開催され、646 人が受講しています。(平成 18 年版消防防災年報)

ii. 甲賀広域行政組合消防本部

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 8 台の救急車を保有し、108 人の救急隊員(うち救急救命士 24 人)が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 29.2 分で、2,595 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例は 2 例です。

なお、圏域におけるメディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	公立甲賀病院
24 時間対応	○
専門職員の配置	
日本脳卒中学会専門医	○
脳神経外科専門医	○
リハビリテーション科専門医	—
認定看護師(救急看護)	—
対応可能な治療法	
脳梗塞急性期の治療(血栓溶解療法等)	◎
脳梗塞再発予防のための外科手術	○
脳梗塞再発予防のための血管内治療	○
脳出血の内科的治療	○
脳出血による血腫除去の	○

ための外科手術	
くも膜下出血の開頭手術	○
くも膜下出血の脳血管内治療	○
急性期リハビリテーション	○

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）および脳出血の内科的治療が、信楽中央病院で、脳出血の内科的治療が甲南病院で実施可能です。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

生田病院で可能です。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

甲西リハビリ病院（56床）の1病院です。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能なその他の医療機関

水口市民病院、公立甲賀病院、生田病院の3病院で実施が可能となっています。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

スキナビラ水口、石部ケアセンター、ケアセンターこうせい

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が19ヶ所、在宅医療支援診療所が3ヶ所、訪問看護ステーションが7ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は28ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は公立甲賀病院のみです。その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、圏域内の病院のみにとどまらず、公立甲賀病院のほかに、大津保健医療圏の大津赤十字病院、滋賀医科大学附属病院、湖南保健医療圏の済生会滋賀県病院、東近江保健医療圏の近江八幡市立総合医療センターと多岐に渡っており、圏域における脳卒中に関する急性期医療機能が充足されているとは言い難く、急性期医療の提供体制は他圏域への依存なしには完結できない状況にあります。

ii. 診療所と病院の連携状況

A. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としてあげる病院は、公立甲賀病院が最も多く約50%を占めていますが、それ以外では圏域内の他の病院よりもの県立成人病センターや済生会滋賀県病院、滋賀医科大学附属病院をあげる診療所（3病院合わせて約37%）が多く、初期診療からより専門的な検査・治療への連携についても、病院間連携と同様、湖南および大津の各保健医療圏の医療機関に依存したかたちとなっています。

イ. 病院から診療所への紹介（二逆紹介）の状況

19 の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。公立甲賀病院を中心とした圏域内の病院からの受け入れが主（約 70 %）ですが、済生会滋賀県病院、成人病センターなど湖南保健医療圏からの受け入れも見られます。

《東近江保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間で 28 の診療所が脳卒中患者（疑われる者、予後の管理者を含む。）252 名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は 44 診療所で、平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間に 37 名の患者の紹介が行われています。また、31 の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆CT 検査が可能な診療所

青葉メディカル

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

田原整形外科、たかだ内科医院、青葉メディカル、沖野診療所山田内科、朝日医院

②病院前救護（発症直後の救護・搬送等）機能の状況

市町村合併により、この圏域の病院前救護体制は、東近江行政組合消防本部と愛知郡広域行政組合消防本部（旧湖東町、旧愛東町の区域）が担っています。

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は、平成 17 年中に東近江行政組合消防本部と愛知郡広域行政組合消防本部で合わせて 201 回開催され、4,273 人（愛知郡広域行政組合消防本部が管轄する旧愛知川町、旧秦荘町の受講者を含む。）の受講者が受講しています。（平成 18 年版消防防災年報）

ii. ア) 東近江行政組合消防本部

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 8 台の救急車を保有し、183 人の救急隊員（うち救急救命士 25 人）が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 31.0 分で、3,578 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例は 3 例です。

なお、メディカルコントロール体制は整備されています。

イ) 愛知郡広域行政組合消防本部

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 3 台の救急車を保有し、52 人の救急隊員（うち救急救命士 13 人）が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 32.1 分で、658 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例は 1 例です。

なお、メディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	近江八幡市立総合医療センター	湖東記念病院	日野記念病院
24 時間対応	○	○	○
専門職員の配置			
日本脳卒中学会専門医	○	—	—
脳神経外科専門医	○	○	○
リハビリテーション科専門医	○	—	—
認定看護師（救急看護）	○	—	—
対応可能な治療法			
脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）	◎	◎	○
脳梗塞再発予防のための外科手術	○	○	○
脳梗塞再発予防のための血管内治療	○	○	○
脳出血の内科的治療	○	○	○
脳出血による血腫除去のための外科手術	○	○	○
くも膜下出血の開頭手術	○	○	○
くも膜下出血の脳血管内治療	○	○	○
急性期リハビリテーション	○	○	○

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞再発予防のための外科手術が国立病院機構滋賀病院で、脳梗塞再発予防のための血管内治療が近江温泉病院で、脳出血の内科的治療が八幡青樹会病院、青葉病院、近江温泉病院、国立病院機構滋賀病院、東近江敬愛病院、東近江市立蒲生病院で、脳出血による血腫除去のための外科手術が国立病院機構滋賀病院で、くも膜下出血の開頭手術が国立病院機構滋賀病院で実施可能です。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

ヴォーリス記念病院、東近江市立能登川病院で可能です。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

近江八幡市立総合医療センター（50床）の1病院です。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能なその他の医療機関

八幡青樹会病院、近江温泉病院、東近江敬愛病院、東近江市立蒲生病院、東近江市立能登川病院、日野記念病院の6病院で実施が可能となっています。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

ヴォーリス老健センター、ケアセンター蒲生野、リスタあすなろ、リハビリセンターあゆみ、ウェル青葉、こちの郷

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が 31 ケ所、在宅医療支援診療所が 8 ケ所、訪問看護ステーションが 9 ケ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は 29 ケ所、脳血管疾患リハビリテーション料届出診療所は 2 ケ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は近江八幡市立総合医療センター（救命救急センター）、湖東記念病院、日野記念病院の 3 病院で、国立病院機構滋賀病院がこれらの病院に準じた機能を有する病院となっています。その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、近江八幡市立総合医療センターが最も多くなっていますが、その他は圏域内の国立病院機構滋賀病院、湖東記念病院、圏域外の済生会滋賀県病院、彦根市立病院への紹介がほぼ同程度に行われているものと思われ、圏域における脳卒中に関する急性期医療機能は整備されていると思われるにもかかわらず、医療提供体制の実態は他の保健医療圏に一定程度依存した状況となっています。

ii. 診療所と病院の連携状況

A. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としてあげる病院は、近江八幡市立総合医療センターが圧倒的に多く全体の約 32 % を占め、これに次いで圏域内では、国立病院機構滋賀病院、湖東記念病院、日野記念病院（3 病院合わせて約 25 %）をあげる診療所が多くなっていますが、約 3 割の診療所が湖南保健医療圏の県立成人病センター、済生会滋賀県病院を中心に圏外の病院をあげており、初期診療からより専門的な検査・治療への連携についても、病院間連携と同様、湖南保健医療圏を中心とした他圏域の医療機関に一定程度依存したかたちとなっています。

I. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

31 の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。近江八幡市立総合医療センターを中心とした圏域内の病院からの受入が主ですが、湖南保健医療圏の県立成人病センターからの受入も一定程度あり、A と同様、湖南保健医療圏との連携が強い状況にあります。

《湖東保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間で 26 の診療所が脳卒中患者（疑われる者、予後の管理者を含む。）191 名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は 47 診療所で、平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間では 31 名の患者の紹介が行われています。また、33 の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆CT検査が可能な診療所

馬場医院、成美医院、山田クリニック、若松医院

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

中川クリニック

②病院前救護（発症直後の救護・搬送等）機能の状況

市町村合併により、この圏域の病院前救護体制は、彦根市消防局と愛知郡広域行政組合消防本部（旧愛知川町、旧秦荘町の区域）が担っています。

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は、平成 17 年中に東近江行政組合消防本部と愛知郡広域行政組合消防本部で合わせて 201 回開催され、4,273 人（愛知郡広域行政組合消防本部が管轄する旧湖東町、旧愛東町の受講者を含む。）の受講者が受講しています。（平成 18 年版消防防災年報）

ii. ア) 彦根市消防局

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 5 台の救急車を保有し、31 人の救急隊員（うち救急救命士 18 人）が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 25.1 分で、2,735 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例はありません。

なお、メディカルコントロール体制は整備されています。

イ) 愛知郡広域行政組合消防本部

（東近江保健医療圏の項参照。）

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	彦根市立病院
24 時間対応	○
専門職員の配置	
日本脳卒中学会専門医	○
脳神経外科専門医	○
リハビリテーション科専門医	—
認定看護師（救急看護）	—
対応可能な治療法	
脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）	◎
脳梗塞再発予防のための外科手術	○
脳梗塞再発予防のための血管内治療	○
脳出血の内科的治療	○
脳出血による血腫除去のための外科手術	○
くも膜下出血の開頭手術	○
くも膜下出血の脳血管内	○

治療	
急性期リハビリテーション	○

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）が豊郷病院で、脳出血の内科的治療が友仁山崎病院と豊郷病院で、脳出血による血腫除去のための外科手術が豊郷病院で、急性期リハビリテーションが友仁山崎病院と豊郷病院で実施可能です。

iii. 上記以外で、検査・診断が可能な病院

彦根中央病院で可能です。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

圏域内に回復期リハビリテーション病棟を有する病院はありません。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能な医療機関

彦根市立病院、豊郷病院の2病院で実施が可能となっています。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

パストラールとよさと、アロフェンテ彦根

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が33ヶ所、在宅医療支援診療所が2ヶ所、訪問看護ステーションが6ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は42ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は彦根市立病院で、豊郷病院がこれに準じた機能を有する病院となっています。その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、彦根市立病院が基本となっていますが、湖北保健医療圏の市立長浜病院、長浜赤十字病院に対する紹介もほぼどの病院からも行われており、圏域における脳卒中に関する急性期医療機能は彦根市立病院、豊郷病院と湖北保健医療圏の2病院とで充足されている状況となっています。

ii. 診療所と病院の連携状況

A. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としてあげる病院は、彦根市立病院が圧倒的に多く全体の42%を占め、次いで多い豊郷病院等と合わせると全体の70%以上が圏域内の病院で占められていますが、市立長浜病院や湖東記念病院をあげる診療所も一定程度みられ、初期診療からより専門的な検査・治療への連携についても、湖北保健医療圏を中心に他の圏域の医療機関に一定程度依存したかたちとなっています。

I. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

33の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。彦根市立病院、豊郷病院を中心とし

た圏域内の病院からの受入が主ですが、湖北保健医療圏の市立長浜病院からの受け入れも一定程度見られます。

《湖北保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間で 33 の診療所が脳卒中患者(疑われる者、予後の管理者を含む。) 452 名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は 50 診療所で、平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間では 48 名の患者の紹介が行われています。また、46 の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆CT検査および超音波ドプラー検査が可能な診療所

工藤神経内科クリニック

◆CT検査が可能な診療所

布施クリニック、近江長岡水野医院、西浅井町国保診療所、みやこクリニック、つみみクリニック、

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

浅井診療所、永原診療所、米原診療所、源内クリニック

②病院前救護(発症直後の救護・搬送等)機能の状況

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は、平成 17 年中に 110 回開催され、2,468 人が受講しています。(平成 18 年版消防防災年報)

ii. 湖北地域消防組合

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 15 台の救急車を保有し、149 人の救急隊員(うち救急救命士 43 人)が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 26.9 分で、4,111 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例は 2 件です。

なお、圏域におけるメディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	市立長浜病院	長浜赤十字病院
24 時間対応	○	○
専門職員の配置		
日本脳卒中学会専門医	○	○
脳神経外科専門医	○	○
リハビリテーション科専門医	○	—
認定看護師(救急看護)	—	—
対応可能な治療法		
脳梗塞急性期の治療	◎	◎

(血栓溶解療法等)		
脳梗塞再発予防のための外科手術	○	○
脳梗塞再発予防のための血管内治療	○	○
脳出血の内科的治療	○	○
脳出血による血腫除去のための外科手術	○	○
くも膜下出血の開頭手術	○	○
くも膜下出血の脳血管内治療	○	○
急性期リハビリテーション	○	○

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

上記2病院以外の病院に急性期医療機能を有する病院はありません。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

圏域内に回復期リハビリテーション病棟を有する病院はありません。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能な医療機関

市立長浜病院、湖北総合病院の2病院で実施が可能となっています。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

検査・診断のみ可能な病院はありません。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設

長浜メディケアセンター、琵琶、坂田メディケアセンター、ケアセンターいぶぎ、湖北やすらぎの里

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が46ヶ所、在宅医療支援診療所が10ヶ所、訪問看護ステーションが9ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は56ヶ所、脳血管疾患リハビリテーション料届出診療所は4ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は市立長浜病院、長浜赤十字病院で、その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院も、基本的にこの2病院であり、脳卒中に関する急性期医療機能は充足され、急性期医療の提供体制は圏域で完結されています。

ii. 診療所と病院の連携状況

A. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介する病院は、基本的に市立長浜病院と長浜赤十字病院であり、一部圏域外の病院への紹介（県立成人病センター、彦根市立病院等）が見られるものの、初期診療からより専門的な検査・治療への連携についても、圏域内で完結しているものと思われます。

イ. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

46 の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。基本的に市立長浜病院と長浜赤十字病院からの受入であり、圏域外の病院からの受入はほとんどみられません。

《湖西保健医療圏》

①予防・リスク因子管理に係る医療機能

i. 診療所の役割

平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間で 8 つの診療所が脳卒中患者（疑われる者、予後の管理者を含む。）33 名を診察しています。また、より専門的な検査や治療が可能な医療機関への紹介を行ったことがある診療所は 20 診療所で、平成 19 年 3 月の 1 ヶ月間では 13 名の患者の紹介が行われています。また、18 の診療所に急性期を脱した患者の逆紹介を受け入れた実績があります。

ii. 診療所の検査機能

◆CT 検査が可能な診療所

藤井医院

◆超音波ドプラー検査が可能な診療所

朽木診療所、氷室内科医院、前川クリニック、

②病院前救護（発症直後の救護・搬送等）機能の状況

i. 本人、家族

消防等により実施される応急手当普通講習会は、平成 17 年中に 23 回開催され、370 人が受講しています。（平成 18 年版消防防災年報）

ii. 高島市消防局

平成 18 年版消防防災年報によると、平成 18 年 4 月 1 日現在 5 台の救急車を保有し、63 人の救急隊員（うち救急救命士 17 人）が活動しています。平成 17 年中の救急出場から医療機関に収容するまでに要した時間は、急病の場合、平均で 24.9 分で、1,374 人搬送したうち、脳卒中治療で医療機関到着までの目安とされる 2 時間を超えた事例はありません。

なお、圏域におけるメディカルコントロール体制は整備されています。

③急性期の医療機能

i. 急性期の検査・治療・リハビリテーションを行う病院

	公立高島総合病院
24 時間対応	○
専門職員の配置	
日本脳卒中学会専門医	—
脳神経外科専門医	○
リハビリテーション科専門医	—
認定看護師（救急看護）	—
対応可能な治療法	

脳梗塞急性期の治療 (血栓溶解療法等)	◎
脳梗塞再発予防のための 外科手術	—
脳梗塞再発予防のための 血管内治療	—
脳出血の内科的治療	○
脳出血による血腫除去の ための外科手術	○
くも膜下出血の開頭手術	○
くも膜下出血の脳血管内 治療	—
急性期リハビリテーション	○

*血管内治療など、一部対応できない治療があります。

ii. その他の病院における急性期医療機能の状況

脳梗塞急性期の治療（血栓溶解療法等）および急性期リハビリテーションがマキノ病院で実施可能です。

④回復期の医療機能

i. 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関

圏域内に回復期リハビリテーション病棟を有する病院はありません。

ii. 回復期リハビリテーションの実施が可能な医療機関

マキノ病院で実施可能です。

iii. 上記以外で検査・診断が可能な病院

今津病院で可能です。

⑤維持期の医療機能

i. 在宅への復帰を支援する機能

在宅復帰支援のためのリハビリテーションの実施、在宅復帰に向けて在宅療養支援を行う診療所や介護事業所との連絡調整を積極的に行っている介護老人保健施設
陽光の里

ii. 在宅での療養生活を支援する機能

在宅での療養生活を支援する診療所は、病院からの逆紹介の受け入れ実績のある診療所が18ヶ所、在宅医療支援診療所が2ヶ所、訪問看護ステーションが4ヶ所あり、これら施設等のサービスをコーディネートし、患者の在宅療養生活を支援するためのケアプランを立てる居宅介護支援事業所は20ヶ所となっています。

⑥医療機関連携の状況

i. 病院間連携の状況

どのような症例であっても原則自病院で対応可能とする病院は高島総合病院ですが、血管内治療等一部実施不可能な治療があります。その他の病院が自病院で対応不能と判断した場合の紹介先病院は、高島総合病院が基本ですが、大津赤十字病院、大津赤十字志賀病院への紹介も行われており、事実上大津保健医療圏の医療機関に依存している部分が大いと思われれます。

ii. 診療所と病院の連携状況

ア. 診療所が紹介先としている病院

診療所が紹介先としている病院は、公立高島総合病院と大津赤十字病院が多く、県立成人病センターをあげる診療所も一定数ある状況で、圏域内の病院のみで急性期の医療機能が充足されているとは言い難い状態です。また、公立高島総合病院以外の圏域内の病院への紹介はほとんど行われてません。

イ. 病院から診療所への紹介（＝逆紹介）の状況

18 の診療所に逆紹介を受け入れた実績があります。基本的に公立高島総合病院と大津赤十字病院からの受入であり、ここからも大津保健医療圏との連携が大きいことが伺えます。